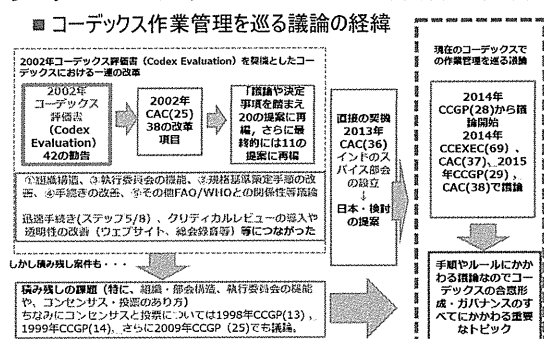


議事録のあり方、規格策定ステップの簡素化（現在の8ステップから5に簡素化する）、コンセンサス形成と投票のあり方（現状投票は単純過半数で採択としているが、コンセンサスを原則とする意思決定との兼ね合いで2/3を検討することや、コンセンサス形成が失敗した場合執行委員会が過半数で投票の勧告をすることなどを提案）、部会の議長国に関する地理的配分の見直し（議長国は現状固定であるが持ち回り制や任期制等にする、共同開催を推する等）、物理的作業部会の有効性の検討（特に途上国や事務局の作業負担との関係性）、各部会におけるリスク分析枠組みの利用に関するレビュー、といったことを挙げている。

#### 参考：コーデックスにおける議論の経緯



## 2. リスクコミュニケーションとネットワーク構築の展開

本年度は、2015年9月12日(土)東京大学弥生講堂セイホクギャラリー(東京大学農学部内)にて、国際シンポジウム『食品安全国際規格(コーデックス委員会)のあり方—ヨーロッパの視点から』を開催することにより、広い意味でのリスクコミュニケーションと国内外の連携構築を図った(当日の開催プログラム、発表者の資料は添付資料1を参照)。

シンポジウムの概要は以下のとおりである(なお、ほぼ同様の内容を、東京大学政策ビジョン研究センターのウェブサ

イトを通じて広く周知した<sup>2)</sup>。

コーデックス規格は、FAO/WHOの専門家会合における科学的評価をベースとし、加盟国(およびEUのような地域主体)間の議論に基づき策定される。したがって、加盟国・地域主体が、どのような視点でコーデックスをとらえているのか、いかにコーデックス対応が構築されているのか、を理解することは、国際食品規格策定のプロセスを理解する上でも、日本のコーデックス戦略を考えるうえでも重要である。本シンポジウムは、日本のコーデックスへの取り組みの検討に資するよう、EUの担当者から、EUにおけるコーデックスへの取り組み等を紹介してもらうことで、コーデックスに関する理解を深めるとともに、議論を共有する場を提供することを目的として開催した。

シンポジウムでは、まず、欧州委員会保健衛生・食の安全総局

(Directorate-General for Health and Food Safety) ユニット G6 (多国間国際関係)

の次長の Ms Eva Maria Zamora Escibano

氏より、「EUにおけるコーデックスの活動(Codex activity in EU)」と題する発表があった。講演の中では、EUのコーデ

ックス対応・戦略の形成プロセス、その際に考慮される重要事項、異なる加盟国間の利害調整の課題、について論じたう

えで、現在コーデックスで議論になっている、コーデックス作業管理についての欧州の視点を論じた。

続いて、欧州委員会保健衛生・食の安全総局(Directorate-General for Health and Food Safety) ユニット長の Ms. Ella Strickland 氏が、「コーデックスとWTO、EUの視点から(Codex and WTO: an EU perspective)」を発表した。コーデックスとWTOとの関係性について論じたう

えでEUが関連した具体的事例として、ホル

<sup>2)</sup> 国際シンポジウム『食品安全国際規格(コーデックス委員会)のあり方—ヨーロッパの視点から』開催報告 [http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp150912\\_rep.html](http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp150912_rep.html)

モン牛紛争のケースとイワシのケースについて論じた。

最後に、在北京欧州連合代表部の Mr. Jerome Lepeintre が、「国際的な視点から見たコーデックスー現在と将来の課題 (Codex from International Perspective - Current and Future Challenges)」を発表した。コーデックスを国際的な視野からとらえた場合に、今後新たに直面しうる問題とコーデックスの役割のあり方について論じた。

続くパネルディスカッションは、上記基調講演者に加え、辻山弥生氏（農林水産省調査官、コーデックス副議長）、豊福肇氏（山口大学 共同獣医学部教授）がパネリストとして参加し、東京大学松尾真紀子の進行により行った。講演者間での意見交換のあと、国内規制と国際規制のあいだの整合性を図るための EU における対応（科学的エビデンスの確保のあり方）や、食品安全分野における新たな課題におけるコーデックスの役割、コーデックスにおけるコンセンサス形成のあり方等について議論がなされた。会場からも活発な質問があり、時間を延長して議論が行われた。当日は約 60 名（産業界、消費者団体、一般消費者、学識経験者、学生等）の参加があった。

#### D. 考察

まず、「コーデックス作業管理及び執行委員会の機能 (Codex Work Management and Functioning of the Executive Committee)」については、C で論じたとおり、5つの分野（①マンドートと優先順位づけ、②コーデックスと FAO/WHO との関係性、③コーデックスにおける戦略的ガバナンスー執行理事会 (Executive Board, CX-EB) 設置の検討、④コーデックスの部会構成の見直し、⑤コーデックスの作業の効率化）が事務局から特定されたが、その後、そもそもこの作業の TOR について議論することとなったことから、具体的な中身の議論に至っていないのが現状である（しかも鍵となる項目として

挙げられた事項も、毎回異なった）。

しかし、事務局整理に対する主要国から寄せられたコメントの優先順位項目からも (CX/CAC 15/38/9 Add.2 及び CX/CAC 15/38/9 Add.3)、執行委員会の機能については、重要な点となることが予想されるので、以下ではさらにその論点について述べる。事務局案では過去にコーデックス評価書で提案された執行理事会 (CX-EB) の構想を再度検討するように提案している。これは、執行委員会の現在のメンバー構成が大きすぎ、また、本来執行委員会が果たすべき戦略的機能や規格策定プロセスの監督機能が十分に果たされていないとの認識の為である。規格策定の勧告について、評価書ではどのような規格も 5 年以上要すべきでないとしているが、これまでクリティカルレビューで作業の中止等の判断がなされたことはない（注意はある）。その結果、加盟国が求めれば何年も議論が継続し、例えば、遺伝子組換え表示の場合は 1993 年～2010 年まで議論がなされた。さらに現在の会議開催のタイミングが総会直前であることから、結果として総会のアジェンダの単なる重複になってしまうという問題もある。

今回の事務局案 (CX/CAC 15/38/9) では、執行理事会 (CX-EB) は現在の執行委員会の機能をほぼすべて引き継ぐような形で、構成メンバーの縮小を求めている（地域を代表する 10 名以下とすることを提案しており、メンバーが個人として参加するか、国の代表として参加するかの検討を求めている）。他方、過去の案では戦略的機能を担う小規模の執行理事会 (CX-EB) と規格策定を担う規格策定委員会を別に設置することも議論されて、その場合、後者は各地域から選出された 20 名のメンバーで持ち回り制とし、総会開催の 6 週間以上前に規格策定のプロセスについての会議を行ったうえで総会に報告を行うとしていた (ALINORM 03/26/11 Add.3 para.18)。各国からは、構成メンバーを確定するよりも、現状の問題を特定すること（日本）、執行機能の何

が優先事項で目的かを検討すること（欧州）が重要との指摘がある。

その他、作業管理で特に議論されることが予想される課題は、コンセンサスと投票の問題である。この問題も過去に何度も議論がなされているが、欧州などは基準採択のルールを現在の単純過半数でなく、OIE や IPPC などと同様 2/3 にすべきとの主張を繰り返している（2/3 にすべきとの点はコーデックス評価書の勧告にもあった）。コンセンサス形成のための方策は、FAO などでも使われている FOC（Friends of the Chair）アプローチの試行や、議長のガイダンスの作成など継続的に試みがなされている。日本は、IPPC や OIE でも調停機能を制度化しているので、ある種の協議メカニズム（Consultation Mechanism）を検討してはどうかと論じている。組織によってマンドートやコンテキストが異なることから、ほかの国際機関で導入されている手法等をそのまま採用は難しいにしても、それが有用かを積極的に検討していくことが必要であろう。

国際シンポジウムでは、欧州のコーデックスの担当者から直接欧州の規格策定プロセスや域内の 28 か国の戦略やポジション形成の課題を具体的に論じてもらい、現在課題となっている、作業管理において注目している点などについても議論してもらった（特にコンセンサスや投票に関する事項が論じられた）。また、実際に WTO 紛争に持ち込まれた事例についての欧州としての考え方についても説明してもらった。パネルの議論においては、コンセンサス形成のための試みとして、例えば WTO で行われているアドホックコンサルテーションの動きについても紹介があった。このように直接コーデックスの欧州の担当者が欧州の考え方を論じる機会はこれまでに十分になかったものである。シンポジウムのアンケート結果でも、「非常に良かった」と「良かった」を合わせておおよそ 9 割（「非常に良かった」が 35%、「良かった」が 52%）という結果になった。また、このように諸外国における規格策定状況の実態や課題につい

て現場の担当者から話を聞ける機会は有益という声が多く寄せられた。こうした活動は、コーデックスに関する施策の推進やその支持においても非常に重要である。

## E. 結論

本年度は、CCGP で議論されている、「コーデックス作業管理及び執行委員会の機能（Codex Work Management and Functioning of the Executive Committee）」の議題に関する議論のアップデートと論点整理及び、欧州の政策担当者を招聘した国際シンポジウムを開催した。

コーデックス作業管理についての今後の展開は、来年度開催予定の第 30 回 CCGP における TOR とそのスケジュール次第であるため、現段階では確定的なことは分からない。しかし前回のコーデックス評価書の例で言うと、評価書が出た後、集中的に提案内容を議論する議論がなされ、その勧告をどのように実施するのかについての決定が、総会、執行委員会、関連部会等で 6~7 年という長期にわたって展開された。一方、今回事務局が整理した項目で取り上げられている課題のほとんどは過去の議論の積み残しである（逆に言うと新たな課題はほとんどない）。交渉の場で議論するためには、過去の経緯（何が問題であったのか、どのような点がすでに議論されたのか、当時どのような論理で合意されなかったのか）を十分に理解することが議論の重複や無駄な議論の省力化につながる。その意味で、煩雑さを伴うものの、本研究で取りまとめた、議論の経緯と論点整理参考資料は非常に重要である。また、手順やガバナンスに関する事項がメインになることからコーデックス全体にかかわる重要な問題でもある。こうしたことから、本作業については、今後継続的にフォローすべき重要な議題の一つであることが指摘できる。

また、国際シンポジウムについては、参加者からも非常に良い反響があったこ

とから、今後も国内外の政策担当者やステークホルダーを巻き込んだイベントを実施することで、コーデックスに対する理解の増進と日本の活動に対する支持の強化に結びつけていきたい。

**F. 健康危険情報**

該当なし

**G. 研究発表**

特になし

## 平成 27 年度添付資料リスト

### 1. コーデックスイベント関係配布資料

1-1 国際シンポジウム『食品安全国際規格（コーデックス委員会）のあり方-ヨーロッパの視点から』趣旨・プログラム

1-2 基調講演 1 「Codex activity in EU」

Ms. Eva Maria Zamora Escribano 氏（欧州委員会 保健衛生・食品安全総局）

1-3 基調講演 2 「Codex and WTO, from EU perspective」

Ms. Ella Strickland 氏（欧州委員会 保健衛生・食品安全総局）

1-4 基調講演 3 「Codex from international perspective」

Mr. Jerome Lepeintre（在北京欧州連合代表部）

2. 「コーデックス作業管理及び執行委員会の機能（Codex Work Management and Functioning of the Executive Committee）」の議論の経緯と論点整理参考資料

分担研究者 松尾真紀子、研究協力者 江津 爽

## 国際シンポジウム

### 『食品安全国際規格（コーデックス委員会）のあり方—ヨーロッパの視点から』

#### —趣旨—

国際食品安全規格は、食品安全確保と食の安全への関心の高まりからその重要性を増している。コーデックス（Codex Alimentarius Commission）は、国際食品規格を策定する政府間組織である。その規格（コーデックス規格）は、WTO（世界貿易機関）のSPS協定（衛生植物検疫措置の適用に関する協定）によって食品安全に関する国際規格と定められていることから重要なものと認識されている。

コーデックス規格は、FAO/WHOの専門家会合における科学的評価をベースとし、加盟国（およびEUのような地域主体）間の議論に基づき策定される。したがって、加盟国・地域主体が、どのような視点でコーデックスをとらえているのか、いかにコーデックス対応が構築されているのか、を理解することは、国際食品規格策定のプロセスを理解する上でも、日本のコーデックス戦略を考えるうえでも重要である。本シンポジウムは、日本にとってのコーデックスへの取り組みの検討に資するよう、EUの担当者から、EUにおけるコーデックスへの取り組み等を紹介してもらうことで、コーデックスに関する理解を深めるとともに、議論を共有する場を提供することを目的とする。

#### —開催概要—

【日時】2015年9月12日（土）10:00～12:10

【場所】東京大学弥生講堂 セイホクギャラリー（東京大学農学部内）

【主催】主催：厚生労働科学研究費補助金「国際食品規格策定プロセスを踏まえた食品衛生規制の国際化戦略に関する研究」、東京大学政策ビジョンセンター、東京大学公共政策大学院

【後援】農林水産省

#### —プログラム—

全体司会進行：

松尾 真紀子（東京大学公共政策大学院・政策ビジョン研究センター特任研究員）

開会挨拶 10:00～10:05

豊福肇（山口大学 共同獣医学部 教授）

基調講演 1 10:05～10:35 （発表 25分 質疑応答 05分）

Ms. Eva Maria ZAMORA ESCRIBANO (Deputy Head of Unit for Multilateral International

Relations, European Commission Directorate-General for Health and Food Safety /欧州委員会 保健衛生・食品安全総局)

「Codex activity in EU」

**基調講演 2** 10:35～11:05 (発表 25分 質疑応答 05分)

Ms. Ella STRICKLAND (Head of Unit for Multilateral International Relations, European Commission Directorate-General for Health and Food Safety /欧州委員会 保健衛生・食品安全総局)

「Codex and WTO, from EU perspective」

**基調講演 3** 11:05～11:35 (発表 25分 質疑応答 05分)

Mr. Jerome Lepeintre (Minister Counselor in charge of Health and Food Safety issues, EU Delegation to China and Mongolia /在北京欧州連合代表部)

「Codex from international perspective」

**パネルディスカッション** 11:35～12:05

モデレーター：

松尾真紀子 (東京大学公共政策大学院、政策ビジョン研究センター特任研究員)

登壇者：

Key note speaker 1 : Ms. Eva Maria ZAMORA ESCRIBANO

Key note speaker 2 : Ms. Ella STRICKLAND

Key note speaker 3 : Mr. Jerome Lepeintre

辻山弥生 (農林水産省調査官、コーデックス副議長)

豊福肇 (山口大学 共同獣医学部教授)

**閉会挨拶** 12:05～12:10

豊福肇 (山口大学 共同獣医学部教授)

#### ◆ 基調講演者

**Key note speaker 1 : Ms. Eva Maria ZAMORA ESCRIBANO**

Ms Zamora Escribano は欧州委員会に勤め、現在、保健衛生・食の安全総局 (Directorate-General for Health and Food Safety) のユニット G6- 多国間国際関係の次長。欧州委員会で 16 年以上の職歴を持ち、科学、検査、能力育成活動、貿易関連の問題、貿易交渉、協力協定 (二国間レベル、多国間レベルの両方) や国際規格 (コーデックス規格) を含む広範囲の事項についての国際的課題に取り組んできた。コーデックス委員会の食品添加物部会、残留農薬部会、魚類・水産製品部会、油脂部会などの欧州連合代表団の長を務めてきており、コーデックスで生じる広い課題にも対応している。獣医学の博士であり、ウイルス学の Ph.D を持つ。

**Key note speaker 2 : Ms. Ella STRICKLAND**

Ella Strickland は、食品安全の分野で、国際レベルでの EU の利益の保全と増進に取り組んでいる。FAO、WHO のコーデックスや CBD のカルタヘナ議定書のようなフォーラムでの、多主体間で多段階式の交渉に参加している。

現在、欧州委員会の保健衛生・食の安全総局でユニット長を務める。欧州委員会に彼 10 年以上勤める中で、明瞭で簡潔で直接の対話こそが、国際的な交渉を促進する道として最も効果的であるとの信念を持ち実践している。

国際関係と経済というバックグラウンドのもと、10 年近く外交官として、リスボンやブダペスト、出身地であるマルタで勤務した。欧州委員会との交渉に 1999 年から密接にかかわり、この交渉が 2004 年におけるマルタの EU 加入へとつながった。

**Key note speaker 3 : Mr. Jerome Lepeintre**

Jérôme Lepeintre は、1984 年、獣医学で学位を取り卒業した。1988 年には論文を提出し、laureate of the Veterinary School of Maisons-Alfort の称号を与えられた。その後、実験研究を専攻し、1989 年に理学で PhD を取得した。また、行政学の 2 年課程をも修めた。2 年間の、フランス海外領土であるレユニオンにおける技術援助の後、5 年間公立の実験研究所の所長を務めた。1997 年に欧州委員会に入り、はじめにアイルランドのダブリンの食品・獣医局へ配属された。アイルランドでは、EU 加盟国と非加盟国の食品への獣医薬の残留に関する法令を監査することを担当していた。2000 年には、健康消費者保護総局のするチームのメンバーとなった。その後、2005 年から 2012 年まで多国間国際関係を担当し特にコーデックス規格の論点を扱うユニットの次長に指名され、あらゆる部会と総会に参加した。2012 年 9 月から、在北京欧州連合代表部へ、欧州委員会の保健衛生・食の安全総局 (Directorate-General for Health and Food Safety) の利益を代表する、公使参事官とし



て配属されている。

### **辻山 弥生 (つじやま やよい)**

農林水産省 消費・安全局消費・安全政策課調査官、コーデックス副議長。

東京農工大学大学院修士課程修了、獣医師資格を取得。1985年に農林水産省に入省。2005年より消費安全局国際検疫班、食品危害対策班、国際基準チーム等を担当。

同省において食品安全及び動物衛生の専門家として活躍しており、近年では、自由貿易交渉、WTO/SPS委員会(2004年から2005年、2011年から現在まで団長)、コーデックス委員会(第18回コーデックスアジア地域調整部会(議長)ほか、様々な部会に団長、団員として参加)、国際獣疫事務局(OIE)等の多くの国際交渉や国際基準策定機関に携わる中、本年コーデックス副議長に日本から選出された。

2007年からは岩手大学農学部客員教授、2011年からは順天堂大学医学部共同研究員も歴任。

### **豊福 肇 (とよふく はじめ)**

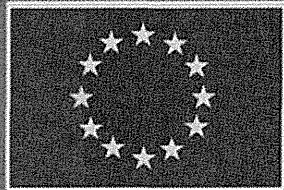
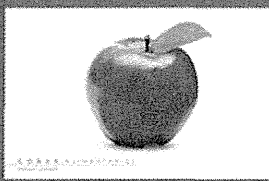
山口大学共同獣医学部病態制御学講座 教授。

1985年、北海道大学獣医学部修了後、厚生省入省。入省後、神奈川県衛生部食品衛生課、厚生省生活衛生局乳肉衛生課主査・獣医衛生係長、成田空港検疫所衛生専門官、国立公衆衛生院衛生獣医学部主任研究官、厚生省生活衛生局乳肉衛生課輸出水産食品査察官、厚生省生活衛生局乳肉衛生課課長補佐を歴任(1998年USFDA、FSIS人事院短期留学)。1999年から世界保健機構(WHO)食品安全部、JEMRA事務局。帰国後(2004年)、国立医薬品食品衛生研究所・安全情報部主任研究官、国立保健医療科学院研修企画部第二室長(組織改正により2011年より)国際協力研究部上席主任研究官を経て、2013年4月より現職。2009年より内閣府食品安全委員会微生物・ウイルス専門委員を務める。また、1997年より、コーデックス食品衛生部会、水産食品部会に、日本代表及びWHO代表として出席。

Please do not reuse/quote without author's permission. The views expressed in this presentation are author's own



# Codex Activities in the EU



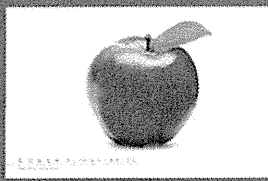
International Food Standards and the Codex Alimentarius Commission  
EU Perspectives  
Tokyo 12 September 2015  
Eva ZAMORA ESCRIBANO  
European Commission

※本資料をご使用・ご引用される場合は、ご本人のご承諾を得るようお願い申し上げます。※また、この資料に含まれる見解は発表者個人のものであります。

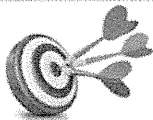
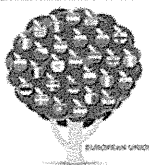
※以下は仮訳となります。正しくは原文のスライドをご参照ください。




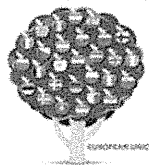
# EUにおけるコーデックスの活動



国際食品規格とコーデックス委員会  
EUの視点  
東京 12/9/2015  
Eva ZAMORA ESCRIBANO  
欧州委員会

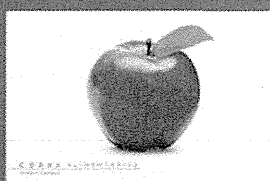
 **Topics covered** 

- 1- How the EU develops its strategy/positions in Codex?
- 2- Which are the important factors to be taken into consideration?
- 3- How different interests among MSs are coordinated?
- 4- Which are the most challenging issues for the EU?
- 5- EU perspective on Codex management and its future

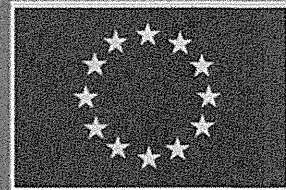
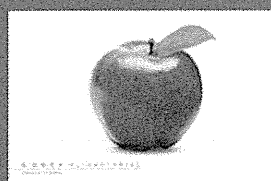
 **取り上げるトピック** 

- 1- EUはどのようにコーデックスにおけるポジションと戦略を形作るのか？
- 2- 重要な考慮要素は何か？
- 3- 加盟国間の異なる利益をどのように調整するか？
- 4- EUにとって最も困難な課題とは何か？
- 5- コーデックスの作業管理と将来に関するEUの見方

# Codex and the EU



# コーデックスとEU



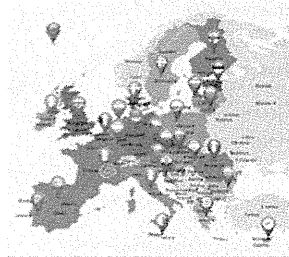
## 28 Member States and the EU ...members of Codex



9 years of negotiations!

28 Member States

## 28のEU加盟国とEU ...コーデックスのメンバー



9年間にわたる交渉!

28のメンバー国

## EU = Member Organisation

All you need to know: Rule II of the Procedural Manual

- ✓ Membership rights on an alternative basis
- ✓ Division of competence in writing before any plenary: competence/right to vote
- ✓ Number of votes = members present
- ✓ Not eligible, does not participate in voting for elective places
- ✓ Creation of EU Codex Contact Point

## EU = 加盟機関

知っておくべきこと: 手続きマニュアル規則 II

- ✓ 状況によって異なる加盟主体の権利
- ✓ 全ての会議の前に文書による権限の配分: 権限/投票権
- ✓ 投票数 = 出席した加盟国の数
- ✓ 選挙の場で投票に参加しないと有効でない
- ✓ EUのコーデックス担当窓口の創設

## Membership rights on an alternative basis

MS Competence  NO EU legislation	Mixed Competence  Some EU legislation	EU Competence  EU legislation
--	---	--

MS Vote

Who speaks?

EU vote



## 状況によって異なる加盟国の権利

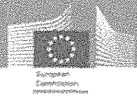
加盟国の権限 EUの法律が ないもの	共有の権限 EUの法律も 一部含まれるもの	EUの権限 EUの法律
--------------------------	-----------------------------	----------------

加盟国別の投票

Who speaks?

EUとしての投票





### Division of competence in writing before any plenary: competence/right to vote

FAO/WHO-REGIONAL-COORDINATING-1] COMMITTEE-FOR-EUROPE]]

29<sup>th</sup> Session]]

The Hague, The Netherlands, 30-September-3-October-2014

#### PROVISIONAL ANNOTATED-AGENDA]] Division of Competence]]

Between the European Union and its Member States according to Rule of procedure II paragraph 5 of the Codex Alimentarius Commission]]

Agenda Item	Subject Matters	Document References
1.	Adoption of the Agenda]] Member States' Competence:]] Member States' Vote:]]	CX/EURO 14/29/1]]
2.	Matters arising from the Codex Alimentarius Commission and other Codex Committees]] Member States' Competence:]] Member States' Vote:]]	CX/EURO 14/29/2]]
3.a	FAO/WHO activities relevant to the region, identifying priorities and capacity development needs]] Mixed Competence:]] Member States' Vote:]]	CX/EURO 14/29/3a]]
4.c	Reevaluation of FAO/WHO Coordinating Committee proposals on strengthening the role and pattern of RDCs]] Member States' Competence:]] Member States' Vote:]]	CX/EURO 14/29/4]]

CRD



### 全ての会議の前の文書による権限の配分: 権限/投票権

FAO/WHO-REGIONAL-COORDINATING-1] COMMITTEE-FOR-EUROPE]]

29<sup>th</sup> Session]]

The Hague, The Netherlands, 30-September-3-October-2014

#### PROVISIONAL ANNOTATED-AGENDA]] Division of Competence]]

Between the European Union and its Member States according to Rule of procedure II paragraph 5 of the Codex Alimentarius Commission]]

Agenda Item	Subject Matters	Document References
1.	Adoption of the Agenda]] Member States' Competence:]] Member States' Vote:]]	CX/EURO 14/29/1]]
2.	Matters arising from the Codex Alimentarius Commission and other Codex Committees]] Member States' Competence:]] Member States' Vote:]]	CX/EURO 14/29/2]]
3.a	FAO/WHO activities relevant to the region, identifying priorities and capacity development needs]] Mixed Competence:]] Member States' Vote:]]	CX/EURO 14/29/3a]]
4.c	Reevaluation of FAO/WHO Coordinating Committee proposals on strengthening the role and pattern of RDCs]] Member States' Competence:]] Member States' Vote:]]	CX/EURO 14/29/4]]

CRD



## 1- How the EU develops its strategy/positions in Codex?



## 1- EUはどのようにコーデックスにおける戦略とポジションを形作るのか



## How the EU develops its positions in Codex?

Basis to develop EU positions is the EU legislation (when exists!).

### Risk Analysis Principles

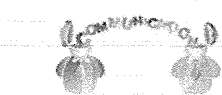
FAO/WHO R.A. Bodies

CAC/Committees

Risk Assessment EFSA

Risk management

Risk communication



## EUはどのようにしてコーデックスにおけるポジションを形作るのか?

EUのポジションをつくる基礎となるものは、法律である(存在する場合は!)

### リスク分析原則

FAO/WHO リスク評価機関

コーデックス委員会/部会

リスク評価 欧州食品安全機関

リスク管理

リスクコミュニケーション





## EU Legislation

- ✓ The EU General Food Law (Regulation (EC) No 178/2002): International standards shall be taken into consideration
- ✓ Specific EU legislation e.g. food additives, MRLs for pesticides and veterinary drugs in food, ML for contaminants, etc.
- ✓ EUMS legislation e.g. quality parameters, codes of practice, etc.



## EUの法律

- ✓ EU一般食品法 (規則 (EC) No 178/2002): 国際規格が考慮に入れられなければならない
- ✓ 特定のEUの法律、例えば、食品添加物、農薬や動物用医薬品の最大残留基準値、汚染物質の最大基準値、など。
- ✓ EUとその加盟国の法律、例えば、品質パラメータ、実施規範、など。



## Strategy



- ✓ Annual meetings with EUMS and important partners
- ✓ Stakeholders
- ✓ What about other Codex members?
- ✓ Coherence with EU values/principles
- ✓ Where ?
- ✓ How and how far?
- ✓ Transparency



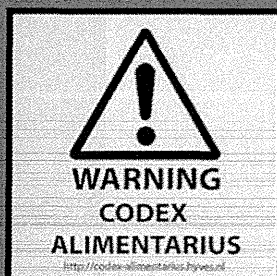
## 戦略



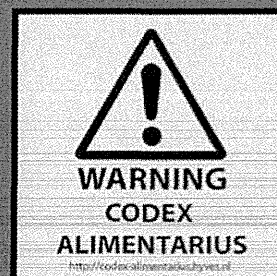
- ✓ EUとその加盟国、重要なパートナーとの毎年の会合
- ✓ ステークホルダー
- ✓ 他のコーデックス加盟国はどうか？
- ✓ EUの価値観や指針との一貫性
- ✓ どこで？
- ✓ どのようにして、どれくらいまで？
- ✓ 透明性



2- Which are the important factors to be taken into consideration?



2- 重要な考慮要素は何か？



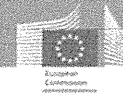


**Food Miles**  
How well travelled is your dinner?



### Important factors

- ✓ Codex Alimentarius global reference point in international food trade
- ✓ Non-mandatory in nature, Codex standards and related texts have since 1995 become international benchmarks for harmonization under the SPS and TBT Agreements of WTO
- ✓ EU is the world's largest importer of food...but also a major exporter
- ✓ Food and Drink sector is the largest industrial sector in the EU



**Food Miles**  
How well travelled is your dinner?



### 重要な要素

- ✓ コーデックス規格は、国際食品貿易上参照される国際的な規格基準である
- ✓ コーデックス規格と関連文書は、本質的に任意のものであるが1995年から、WTOのSPS協定とTBT協定のもと調和の国際的ベンチマークとなった。
- ✓ EUは世界で最大の食糧輸入主体であるが、主要な輸出主体でもある。
- ✓ 飲食部門は、EU最大の産業部門である。



### Important factors

- ✓ Impact of Codex Standards in the EU legislation: general food law, incorporation of Codex standards in the EU legislation (case by case basis).
- ✓ EU's contribution to Codex: sharing our experience on standard setting in light of our policies
- ✓ Trade relationships, common interests , regional interests

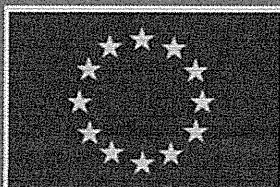


### 重要な要素

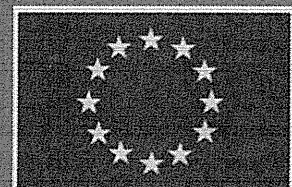
- ✓ EUの法律に対するコーデックス規格のインパクト: 一般食品法, EUの法律におけるコーデックス規格の取り込み(ケースバイケースで).
- ✓ EUのコーデックスへの寄与: EUの政策的視点から、EUの規格策定における経験の共有
- ✓ 貿易関係, 共通利益, 地域利益

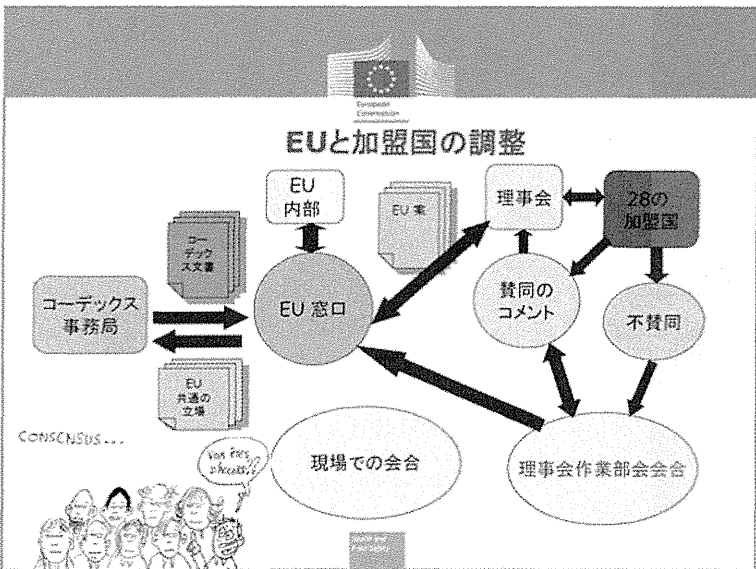
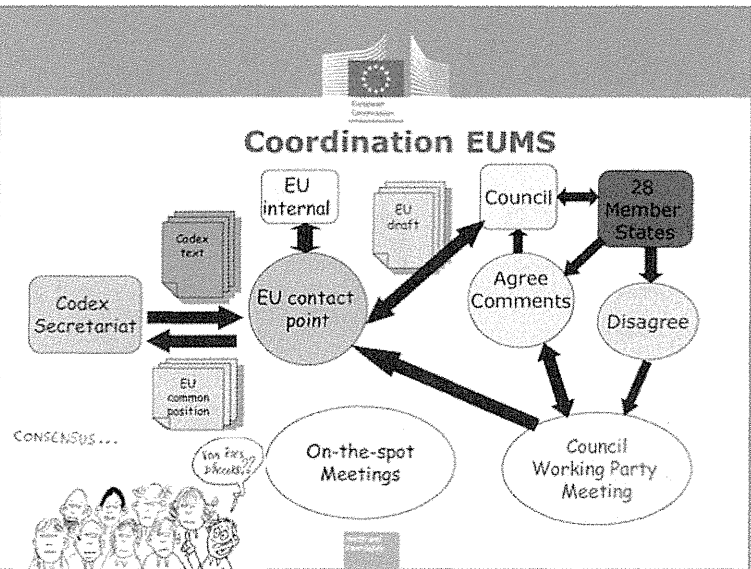
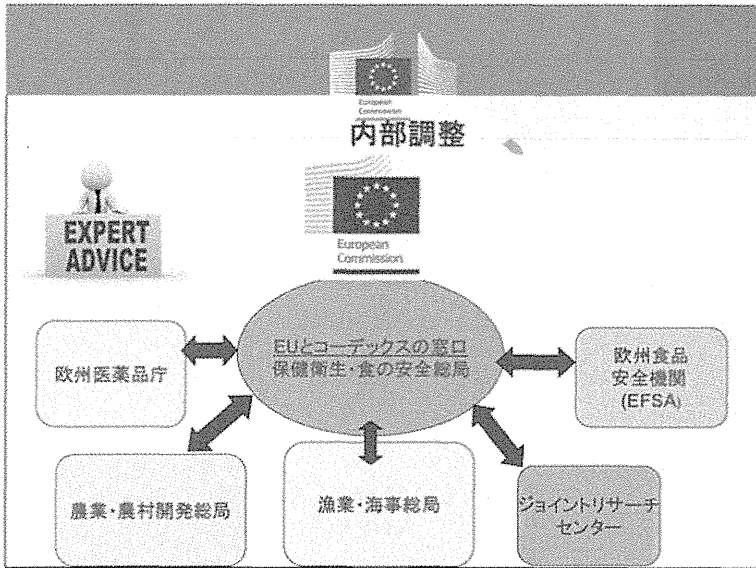
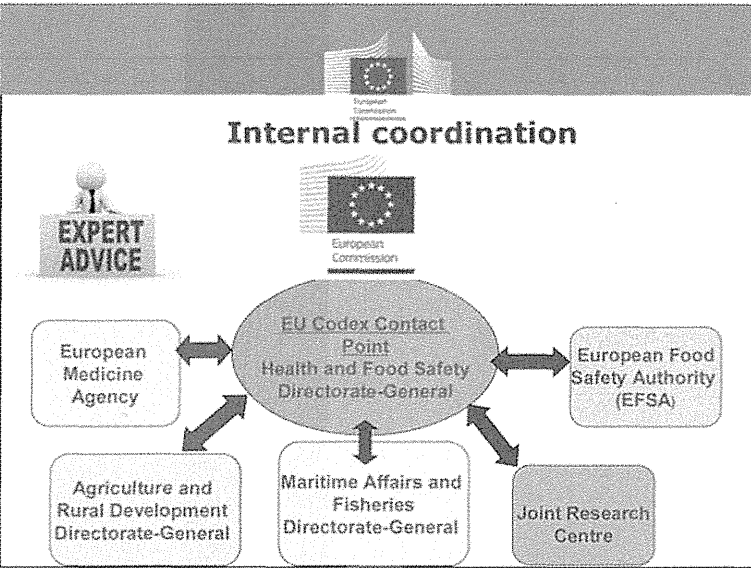


**3- How different interests among MSs are coordinated?**



**3- 加盟国間の異なる利益をどのように調整するか?**





### EU positions PUBLISHED

[http://ec.europa.eu/food/safety/international\\_affairs/standard\\_setting\\_bodies/codex/index\\_en.htm](http://ec.europa.eu/food/safety/international_affairs/standard_setting_bodies/codex/index_en.htm)

**Codex Alimentarius**

The Codex Alimentarius Commission develops and adopts food standards that serve as a reference for international food trade.

**Objectives**

- Protect consumers' health;
- Ensure fair practice in international food trade;
- Coordinate all food standards work done by international governmental and non-governmental organizations.

All 180 members applying the Codex Alimentarius standards bear their obligations under the World Trade Organization Agreement on Technical Barriers to Trade (TBT Agreement).

**EU and Codex Alimentarius**

All EU member states are members of the Codex Alimentarius Commission. In 2015, the EU also joined working arrangements with EU countries, supported by the Secretariat of the International Organisation for Standardization (ISO), regarding standard setting procedures and developing a legal basis for inclusion of the EU to Codex. The Director-General of EFSA is the EU's main contact point.

**EU position papers under relevant CODEX Committees**

- CAC - Codex Alimentarius Commission

### 発表されたEU のポジション

[http://ec.europa.eu/food/safety/international\\_affairs/standard\\_setting\\_bodies/codex/index\\_en.htm](http://ec.europa.eu/food/safety/international_affairs/standard_setting_bodies/codex/index_en.htm)

**Codex Alimentarius**

The Codex Alimentarius Commission develops and adopts food standards that serve as a reference for international food trade.

**Objectives**

- Protect consumers' health;
- Ensure fair practice in international food trade;
- Coordinate all food standards work done by international governmental and non-governmental organizations.

All 180 members applying the Codex Alimentarius standards bear their obligations under the World Trade Organization Agreement on Technical Barriers to Trade (TBT Agreement).

**EU and Codex Alimentarius**

All EU member states are members of the Codex Alimentarius Commission. In 2015, the EU also joined working arrangements with EU countries, supported by the Secretariat of the International Organisation for Standardization (ISO), regarding standard setting procedures and developing a legal basis for inclusion of the EU to Codex. The Director-General of EFSA is the EU's main contact point.

**EU position papers under relevant CODEX Committees**

- CAC - Codex Alimentarius Commission



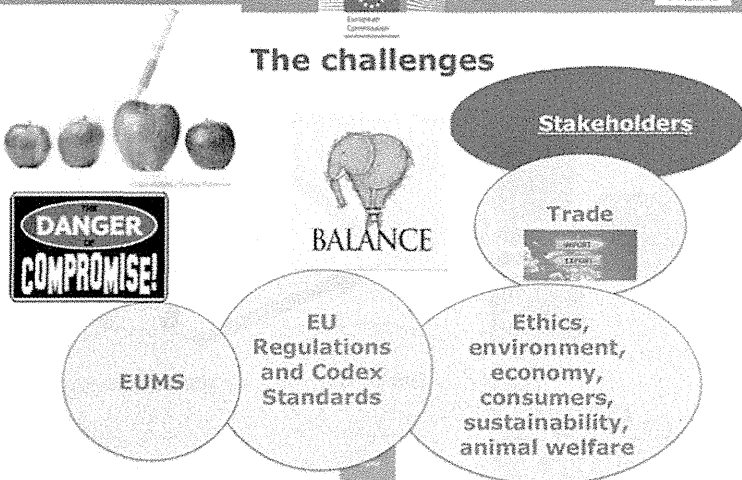
## 4- Which are the most challenging issues for the EU?



## 4- EUにとって最も困難な課題は何か？



### The challenges



### 課題



### Other challenges

- ✓ To keep EUMS fully involved in Codex (contribution, expertise, participation, etc).
- ✓ To set EU positions on some controversial issues (consensus/unanimity).
- ✓ Respecting deadlines: heavy coordination procedure.
- ✓ Workload! (contribution to EWGs, participation in committees, PWG, etc)
- ✓ Budgetary restrictions
- ✓ Insufficient expertise



### 他の課題

- ✓ EUとその加盟国のコーデックスへの十分な参加を確保すること(貢献, 専門知識, 参加, など).
- ✓ いくつかの論争のある点についてEUのポジションを示すこと(コンセンサス/異議のない合意).
- ✓ 期限の遵守: たくさんの調整手続き
- ✓ 作業量! (電子作業部会への貢献, 部会への参加, 物理的作業部会, など)
- ✓ 予算上の制約
- ✓ 不十分な専門知識





## 5- Codex management/future: the EU perspective

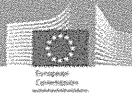


## 5- コーデックス作業管理と将来に関するEUの見方



### Any need for a change?

25 founding members (1963) including 14 EUMS  
Japan became member in 1965  
186 Codex Members - 185 Member Countries  
and 1 Member Organization (EU) 234 Codex Observers



### 改革の必要性?

創立メンバーは14のEU及びその加盟国を含む25か国  
(1963)。日本は1965年に加盟国となった。  
186のコーデックスメンバー- 185 加盟国とand 1つの加盟機関(EU)、234のオブザーバー



## Strategic Plan 2014-2019

### 4 Strategic Goals

- Establish International Food Standards that address current and emerging food issues
- Ensure the application of risk analysis principles in the development of Codex Standards
- Facilitate the effective participation of all Codex members
- Implement effective and efficient work management systems and practices


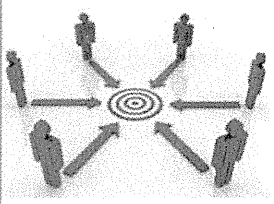


## 戦略計画2014-2019

### 4つの戦略的目標


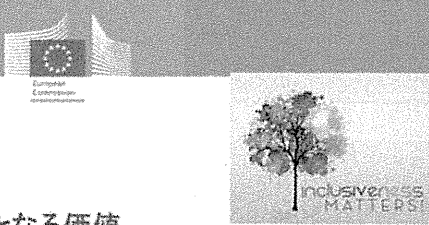
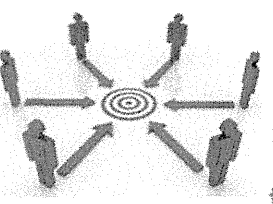
- 進行中及び新規の食品問題に対応する食品規格の構築
- コーデックス規格策定時における、リスクアナリシスの原則の確実な履行
- すべてのコーデックス加盟国の効果的な参加の促進
- 効果的かつ効率的な作業の管理のためのシステムや業務の導入



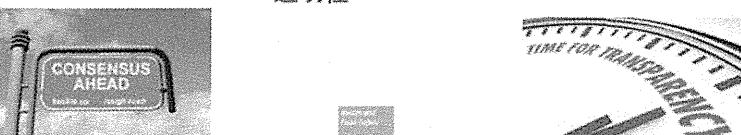

### Core values

- Collaboration
- Inclusiveness
- Consensus building
- Transparency

### 核となる価値

- 協調性
- 包括性
- コンセンサス構築
- 透明性

### Codex Management: six key priority areas

- ✓ Strategic Governance,
- ✓ Responsiveness to emerging issues,
- ✓ Consensus,
- ✓ Cross collaboration amongst Committees,
- ✓ Effectiveness and representativeness of CCEXEC and
- ✓ Efficiency of CCEXEC and CAC



Endorsed at CAC 38 – 2015

↓

CCGP May 2016

↓

CAC 39 – 2016

### コーデックス作業管理: 6つの重点領域

- ✓ 戦略的ガバナンス,
- ✓ 新規の問題への応答性,
- ✓ コンセンサス,
- ✓ 部会間での協力,
- ✓ 執行委員会の有効性と代表性 そして
- ✓ 総会と執行委員会の効率性


2015年 第38回コーデックス委員会 で承認

↓

2016年5月 一般原則部会

↓

2016年 第39回コーデックス委員会


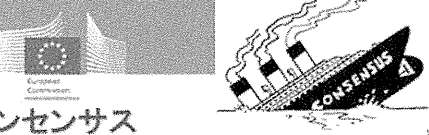
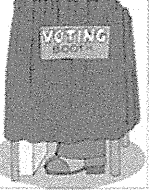




### consensus

- ✓ Strengthen **consensus-based decision-making** standards to be universally applicable need to be universally accepted
- ✓ **Voting** last-resort, fully justified, part of a predictable decision-making process, and on the basis of a qualified majority as IPPC and OIE.
  - ➡ voting is not seen as divisive but democratic, decision-making process.


### Legitimacy and Credibility

### コンセンサス

- ✓ **コンセンサス**に基礎を置いた意思決定の強化
  - ➡ 普遍的に適用可能な規格は普遍的に受け入れられる必要がある
- ✓ **投票** 最後の手段であり、十分に正当化され、予測可能な意思決定手続きの一部として、IPPCとOIEのように特別多数決に基づく
  - ➡ (このようになされれば、)投票は敵対を引き起こすものではなく、民主的な意思決定手続きであるとみなされる。

### 正当性と信頼性



## Effectiveness and representativeness of CCEXEC

- ✓ First Step: determine Codex's **executive function** and **principles** → ensure its ability to deliver on its mandate
- ✓ Second Step: decide on "form of this body"
- ✓ Essential: members act in the **interest of the Commission as a whole** - not constrained by country or regional positions.

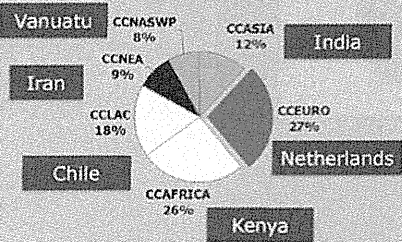


## 執行委員会の有効性と代表性

- ✓ 第一段階: コーデックスの執行機能と原則の決定  
→ その役割を果たすために、能力を確保する
- ✓ 第二段階: "この機関の形態"の決定
- ✓ 重要な点: 執行委員会メンバーの行動がコーデックス委員会全体の利益のためであること- 特定の国や地域の立場に縛られない

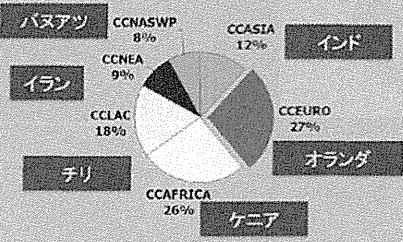


## Effectiveness and Representativeness of CCEXEC Inclusive, transparent and balanced representation of membership



6 FAO/WHO Coordinating Committees

## 執行委員会の有効性と代表性 包括性、透明性とバランスの取れたメンバーの代表制



6つの FAO/WHO 調整部会

## Effectiveness and representativeness of CCEXEC

### 7 Geographical Regions

- Africa 48 Nigeria
- Asia 23 Malaysia
- Europe 50 Norway
- Latin America and the Caribbean 33 Mexico
- North America 2 Canada
- Near East 17 Lebanon
- South-West Pacific 12 New Zealand



## 執行委員会の有効性と代表性

### 7つの地理的地域区分

- アフリカ 48か国 ナイジェリア
- アジア 23か国 マレーシア
- ヨーロッパ 50か国 ノルウェー
- ラテンアメリカとカリブ海 33か国 メキシコ
- 北米 2か国 カナダ
- 近東 17か国 レバノン
- 南西太平洋 12か国 ニュージーランド





## Efficiency of CCEXEC and CAC

An international organization collapsing under its own weight?

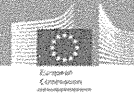
The WTO relevance: a poisoned pill?



Preeminent standard setting body  
➡ strengthen the effectiveness of Codex preserving its core values



Process, procedures, structure/better define roles of CCEXEC, chairs/vice-chairs, etc.



## 執行委員会とコーデックス委員会の効率

国際機関はその重みで崩壊している?

WTOの妥当性: ポイズンピル?



傑出した 規格策定機関であるために

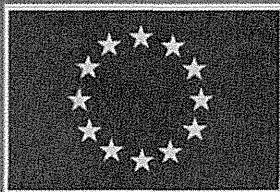
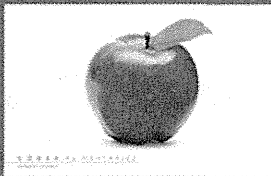
➡ 核となる価値を維持するコーデックス有効性の強化



プロセス, 手続き, 制度/執行委員会の役割をよりよく定義する, 議長/副議長, など



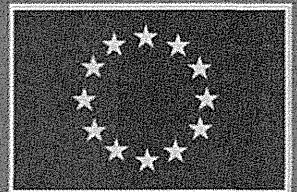
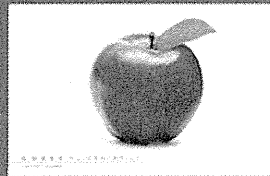
## Thank you for your attention !



Eva ZAMORA ESCRIBANO  
European Commission



## ご清聴ありがとうございました!



Eva ZAMORA ESCRIBANO  
欧州委員会